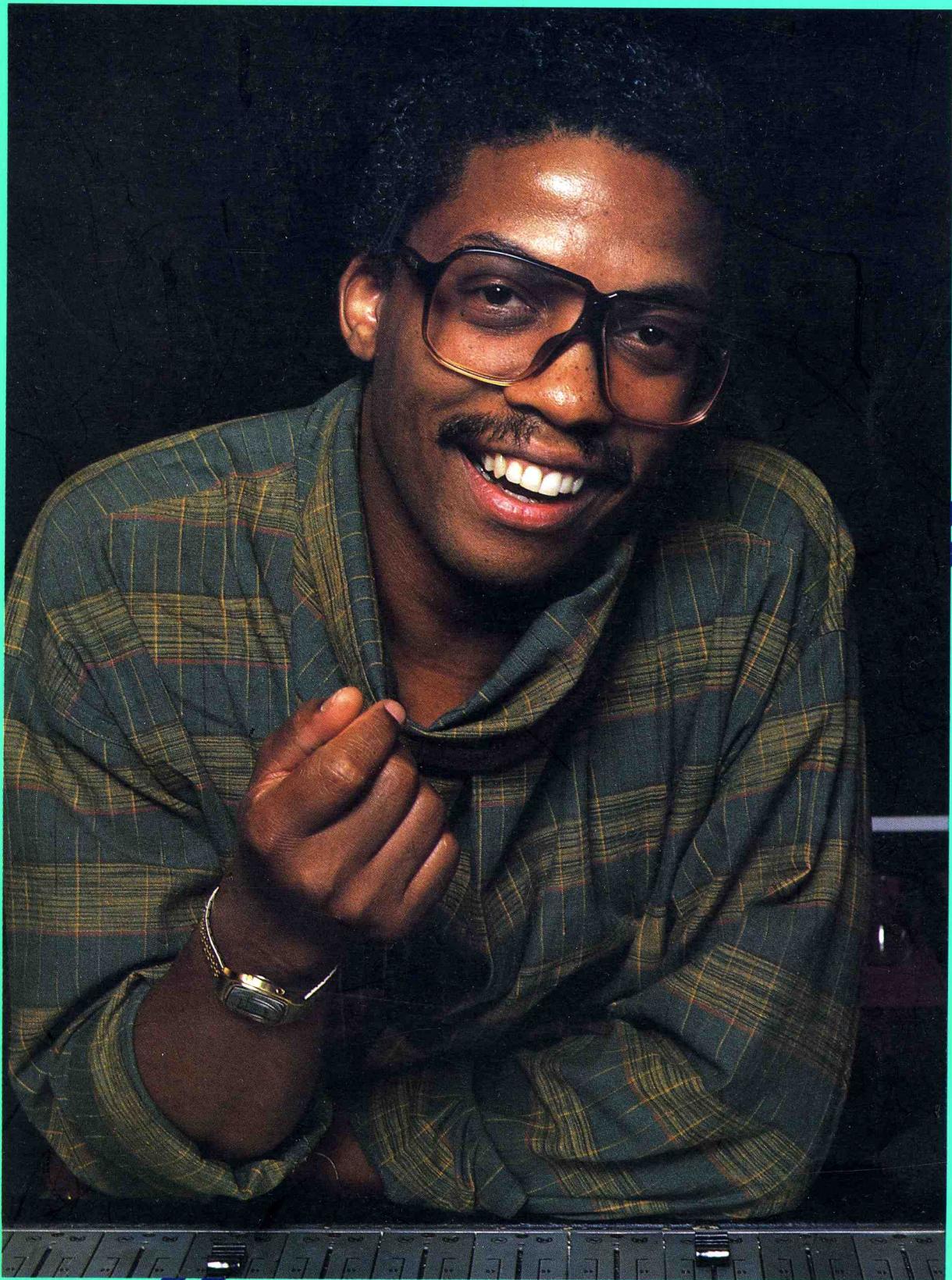


CBS/SONY SONGS

# Herbie Hancock

Scores including Adlib in "Rockit Band"



## contents

最高に"Dangerous"!! ハービー・ハンコック 大徳俊幸 ———	1
Rockit ———	4
Autodrive ———	20
Karabali ———	43
Junku ———	63
Earth Beat ———	83
Hardrock ———	85

Cover Photo by Hiro Ito  
Copy by Mutsuo Tsuruta  
Kyoko Otagawa

We acknowledge the contribution of Mr. Fukabori, April Music to this  
"Best Selection Series". (T.I.)

最高に“Dangerous”!!

初めて“Rockit Band”を聴き、そしてハービー・ハンコックの名前をこれまで知らなかった人達にとって、この音楽はおそらく、とてもミステリアスなものと感じられたことだろう。そういう僕自身にとっても、このグループのサウンドは、実に衝撃的なものだった。彼のことは知りつくしていたはずなのに、やはり驚きはかくせなかつた。ハービーという人物は、大変にエネルギーッシュなミュージシャンであるということに、感心するばかりだ。

この20年間、彼はジャズ・シーンではトップ・ミュージシャンとして、君臨していたし、数々のヒット曲も残してきた。何といつても、あの素晴らしいピアノ・プレイを聴かせていたのだが、ここへきて“Future Shock”というレコードが爆発的なヒットとなり「グラミー賞」まで獲得する大スターとなってしまった。そして、この音楽がジャズでもなければ、ニュー・ウェイヴでもない、独特のジャンルを築いてしまつたのだ。僕自身、ずっと以前からハービーの大ファンだったし、ジャズを志すピアニストならば、誰でも憧れるはずで、やはり彼のことを語るときには、ジャズ・ミュージシャンとしての側面も忘れるわけにはいかないだろう。そもそも、マイルス・デイビスのグループに在団していた頃から、ハービーの名前は有名だったが、その後いくつか自分のグループも持ち、又、セッション・ミュージシャンとしての活躍も目立つてた。そのあたりの、ジャズ・ミュージシャンとしての詳しいことは、このベスト・セレクション・シリーズ②、「ハービー・ハンコックニアコースティック・ピアノ・ソロ」の中で述べているので、参考にして下さい。

このところハービーの活動が少し地味になってきたと思いきや、このような新しいグループをつくってしまうとは、誰が想像しただろうか。何かふっされたように、自由奔放にパフォーマンスしているではないか。これによって、若い音楽ファンたちを魅了してしまつたのだが、彼の今までの足跡をたどれば、そこには現在に至る必然性が沢山あるのだ。そこで“Rockit Band”に至るまでの重要な時期をいくつかにしぶってみよう。

### 第一期 60年代

ハービーの最初の大ヒットとなったのは“Watermelon Man”この曲はよく知っているだろう。当時、どこをみても4ビート・ジャズばかりだった中で、彼は8ビートのファンキーで明るい曲を作った。若いハービーにとって、この曲を作るきっかけとなつたのは、ホレ

ス・シルバー（60年代を代表するファンキーなジャズ・ミュージシャン）からの影響だ。内容は単なるブルースの変形だが、その覚え易いメロディーは今日でもスタンダードな曲として残っている。その頃彼はマイルス・グループに入団する等、最も洗練されたジャズ・ミュージシャンとしても、人気があった。また“欲望”という映画では、サウンド・トラックを担当している。

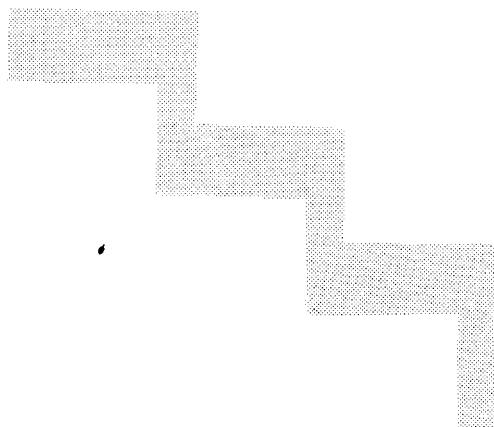
### 第二期 70年代前半

その後彼は、ジャズ・ミュージシャンとして、しばらくの間ポップ・シーンからは遠ざかっていた。そしてこの間に素晴らしいジャズのレコードを沢山発表していたが、ジャズが急激に発展する中で、彼は実験的なグループ“Sextant”を結成した。これはその難解さゆえ、いまひとつぱッとしなかつた。しかしこのグループのサウンドに“Rockit Band”的源があるのだ。

ちょうどこの頃は、宇宙開発たけなわであつて、その高度な技術はついに音楽の世界にまで波及した。そしてシンセサイザーなるものが完成したのだ。今にしてみれば、この素朴な楽器も、ハービーにとって必要不可欠な表現の道具となつた。“Sextant”的音楽は必ずしもメロディックというものではなく、ブルース・フィーリングを感じるものでもなかつた。これは例えば宇宙空間をさまよう魂を表現するような感じがする。全体的には組曲風の構成で、全員の即興による前衛的な手法を取り入れていた。そしてアフリカン・リズムをベースにしており、このベーシック・リズムの概念こそが、今日の“Rockit Band”的基盤であることは、言うまでもない。しかし、この魔術的ともいえるリズムの上に、シリアルな内容がのつた音楽は、世間に受け入れられなかつた。多分、ハービーにとっても混沌とした時期だったのだろう。

### 第三期 70年代後半

そして“Sextant”的反省から、ハービーはひとつの結論を得、一切を捨てて、ファンク・ミュージックに突入したのだ。これが、大ヒットした“Head Hunters”で、それまでのハービーは、いわゆるジャズ・ミュージシャンとの共演がほとんどだったが、リズム・セクションにファンク・ミュージシャンを起用しているところが、興味深い。ドラムのハーヴィー・メイソン、ベースのポール・ジャクソン等のリズム・アレンジを基にして、シンプルなメロディーをのせるという方法をと



# ハービー・ハンコック

つたのだ。それまでのようにリーダーであるハービー自身がすべてのイニシアチブをとるのではなく、作業を分担することで、より明快でポップなサウンドを演出している。特に大ヒットとなった“Cameleon”という曲は、ブルース・フィーリングにあふれたダンス・ミュージックと言えるだろう。これでハービーのダンサブルな曲作りの足掛かりが固められたわけだが、依然としてアドリヴ・ソロ中心のフュージョン・ミュージックという感は拭えなかった。しかしながら彼の音楽は更に洗練され、美しいメロディーとその透明なサウンドは、他の若いミュージシャンたちの見本となつた。

ところで80年代になって頭角を現わしてきた人に、クインシー・ジョーンズがいる。彼のプロデューサーとしての才能はジョージ・ベンソン、あるいはマイケル・ジャクソンの例を出すまでもない。クインシーの代表作「愛のコリーダ」は記録的なヒットとなつたが、このレコードに実はハービーがピアニストとして参加している。そしていわゆるクインシー・サウンドが主流となるや、ハービーも負けじとこれに追随した。それはまだ記憶に新しい“Lite Me Up”だ。ジェイ・グレイドンのプロデュースのもとに、ロッド・テンパートンがアレンジを担当し、これによって完璧なものまでポップ・ミュージックを完成させたが、その出き栄えにもかかわらずビッグ・ヒットとはならなかつた。このレコードにおけるハービーの存在感が薄かつたということも原因しているのかもしれない。

## 第四期 83年以後

ちょうどこの頃、新しく編成された“V·S·O·P”（トランペットのウイントン・マルサリスをフューチャーしたグループ）で来日していたハービーに話を聞くことができた。彼は“Lite Me Up”が不発に終つたことで残念がっていたが、それで逆にふつ切れた様子だつた。そして次に発表するものは大変に面白いものだということも話してくれた。これが問題作“Future Shock”だ。

私の持つているハービーに対するイメージは、リリカルでスマートなミュージシャンというところだったので、まさかこのような音楽が出現しようなどとは、考えもつかなかつた。そもそも“Future Shock”はディスコでヒットしていたということで僕自身もディスコでいち早く聴くことができたのだが、それは“Rockit”という曲だつた。その時はまだ誰の演奏かも知らずに聴いていたのだ。ニュー・ウェイヴでもないし、単なるブラック・コンテンポラリーでもない、一体こんな

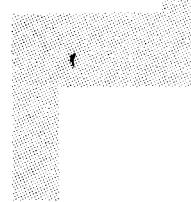
暴力的な演奏をするのは誰なんだろう。しかし妙にひきつけるものがある。乱暴なまでのデジタル・ドラムの連打といい、ねばっこいベース・ライン、なぜか泥臭いメロディー、一見バランスを失つたようなアンサンブル、人を馬鹿にしたような展開のしかた。どこをとってもいちいち気になつてしまふ。

これがハービーの演奏であることを知つたのは、だいぶ後のことだつた。完全に裏をかかれた。一言「マイツタ」余談だが、「マイツタなあ。」はハービーの口癖です。

何とこのレコードのプロデューサーはかねてからの話題の「マテリアル」のビル・ラズウェル（ベースも弾いている）である。ハービーとしては、実に良い人材に目をつけたものだ。曲作りに関していうならば、あくまでもテーマはハービーの作曲だろ。また大筋での展開のアイデアも、やはりハービーのものだろ。しかしリズムの細かい部分や味付けはビル・ラズウェルの助言に依るところが大きいと思う。

さて“Future Shock”、および“Sound System”的根本となつているものは、ダンス・ミュージックであるといえる。シンプルなデジタル・ドラムのプログラムの上にのって、ラテン・パーカッショのポリ・リズムがからんでいる。メロディー・ラインはデジタル・ドラムを意識しているのか、やはり無機質な感じであるが、どことなくブルース・フィーリングも感じられるのも奇妙だ。それに黙々と鳴つているベース・ライン。また何といつても圧巻はスクラッチだ。さらに重要なことは、パーカッショの音が多いが、ハーモニーが極めて薄いことだ。つまり和音によるバッキングをごく控え目にしており、これがまたリズムをより明確にさせる要因となっている。今までの、ハーモニー重視のハービーにとつては、画期的なことである。

現代の多様化しつつある、ポップ・シーンの中にあって、“Rockit Band”的新しさとは何だろ。それはビル・ラズウェルの突飛なアイデアとハービーのオーソドックスな部分との対比といえるだろ。そして使用されているデジタル機材の豊富さ。さらにハービーの持つ独特のフィーリングがある。それは、どことなく淫靡でクールなところ、何か危険な香りがするところだ。よくアメリカのミュージシャンの間で使われている言葉に、“Dangerous”というのがあるが、実はこれは最高の讃美言葉なのだ。まさにハービー・ハンコックは“Dangerous”な存在なのだ。



# Rockit

---

Herbie Hancock:	Fairlight CMI Rhodes Chroma Sennheiser Vocoder Clavitar Dr. Click Rhythm Controller E-mu 4060 Digital Keyboard and Mini-Moog
Bill Laswell:	Steinberger Bass (L-2)
Michael Beinhorn:	DMX Synare Mini-Moog Programming
Grand Mixer D.ST.:	Turntables
Daniel Ponce:	Bata

メインとなるリズムはオーバーハイム製の DMX。これはデジタル音源を持つプログラマブル・ドラム・コンポーザーで現在最も良く使われるドラム・マシーンである。この曲においてまず始めにシンプルなドラム・パートのプログラム（ハイハット、スネア、そしてベースドラム）がなされている。曲の展開に応じてデリート（消去）したり、インサート（割込み）を繰返してベーシックトラックを作っている。その後でベースおよびシンセサイザーをダビングするが、必要に応じてタム類も後からダビングしているものと思われる。最初のベーシック・トラックを作ったときの同期信号によって再び DMX を作動させていている。このドラム関係の録音だけでも相当な時間を要しているはずだ。それにこの曲の持つ、うねるようなフィーリングは Dr. Click Rhythm Controller によって作られている。正確な使い方は分らないが、アクセントあるいは微妙なタイミングのずれをコントロールしているものだろう。更に直接手で DMX の Key を打ち込んで演奏している部分もところどころある。

ステージ・ライヴでの演奏においての方法はむしろドラマーを 2 人にするなどして全面的にはデジタル機材を使用していなかったようだ。

さてアナログ・リズム、すなわちミュージシャンによる演奏の素晴らしさが実は問題となる。パーカッショニストで特徴のあるものは、Bata とよばれるもの。音質

的にはコンガのようだが、肩からつるして両側のヘッドを叩く楽器。次にスクラッチと呼ばれるものがある。これはレコード・プレーヤーを手で回して色々な音程やリズムを出しているもの。これをプレイしている D. ST という人はなかなかのテクニシャンである。彼のシンコペイティッドなリズム感はハービーのバッキングのそれと実によく似ているところが不思議である。あらかじめアレンジされている部分が多いようだが、途中のスクラッチ・ソロはハービーのクラビネット・ソロのようだ。

シンセサイザーの音で特徴的なのはサンプリング（様様の音をデジタル録音するだけでなく、ストックもできる。）した音をパーカッショニストで作っていることだ。Fairlight + CMI はこのようなことが可能な代表的なデジタルシンセサイザー。曲の後半でプレイされているリズム・ソロは Rhodes Chroma（ポリフォニックシンセサイザー）。それからところどころに出てくるディストーション・ギターのサウンドはサンプリングによるものかもしれない。ステージ・ライヴではヤマハの DX7 でやっていた。

この曲の決定的なリズム・フィーリングはハービーのリズム・プレイにある。どの小節においても第 1 拍目から叩く音符の無いのが特徴だ。こういうリズム・ヴァリエイションは、ラテンやゴスペルなどによくみられるものだ。

(大徳)

# ROCKIT

H. Hancock/B. Laswell/M. Beinhorn

© 1983 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music  
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS  
Sale of this edition is authorized within Japan only.

Herbie Hancock:  
Fairlight CMI  
Rhodes Chroma  
Sennheiser Vocoder  
Clavitar  
E-mu 4060 Digital Keyboard  
Mini-Moog

Grand Mixer D. ST:  
Turntables

Bill Laswell:  
Steinberger Bass

Michael Beinhorn:  
DMX

Attack Sound  
Bata

Synare  
Tom

A

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.      Guit.      Scrat.      Bass.      Drums.      Rhythm.

B

Kbd.      Guit.      Scrat.      Bass.      Drums.      Rhythm.

1.                   2.

Kbd.  
Guit.  
Scrat.  
Bass.  
Drums.  
Rhythm.

(Shaker)

**C**

Kbd.  
Guit.  
Scrat.  
Bass.  
Drums.  
Rhythm.

Kbd. (Vocoder)  
 Guit.  
 Scrat.  
 Bass.  
 Drums.  
 Rhythm.

This section contains six staves representing different instruments. The Kbd. staff shows a melodic line with various note heads and rests. The Guit. staff has several rests. The Scrat. staff features a single sharp note. The Bass. staff consists of eighth-note patterns. The Drums. staff shows a steady pattern of 'x' marks. The Rhythm. staff includes eighth-note patterns and a wavy line indicating sustained notes.

Kbd. (2x. only)  
 Guit.  
 Scrat.  
 Bass.  
 Drums.  
 Rhythm.

This section continues with the same six staves. The Kbd. staff now has two sharp notes. The Guit. staff begins with a sharp note followed by rests. The Scrat. staff has a sharp note and a rest. The Bass. staff shows a mix of eighth and sixteenth notes. The Drums. staff maintains its 'x' mark pattern. The Rhythm. staff includes eighth-note patterns and a wavy line.

Kbd.

(2x. only)

Guit.

(Vocoder)

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

F

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

(Strings) *p*

Guit.

(Vocoder)

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

This musical score page contains six staves. The first staff is for Kbd. (Keyboard), featuring a treble clef and a bass clef. The second staff is for Guit. (Guitar) and (Vocoder), with a treble clef. The third staff is for Scrat. (Scratch), with a treble clef. The fourth staff is for Bass., with a bass clef. The fifth staff is for Drums., with a bass clef. The sixth staff is for Rhythm., with a bass clef. The score includes dynamic markings such as *p* (pianissimo) and *p**p* (ppianissimo). The notation consists of various note heads and stems, some with vertical dashes indicating sustained notes or specific attack points.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

1.

Kbd.

Guit.

Scrat. *1x. only*

Bass.

Drums. *(Noise)*

Rhythm.

2.

**G**

Kbd.

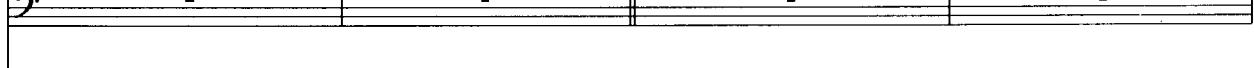
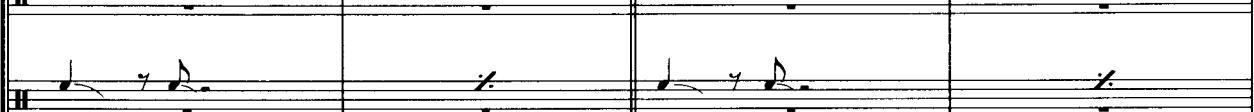
Guit.

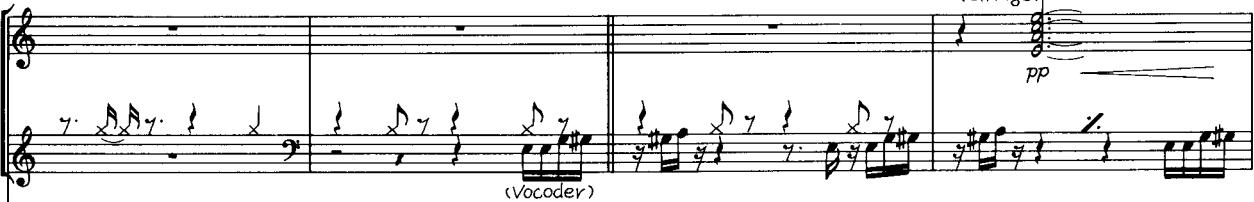
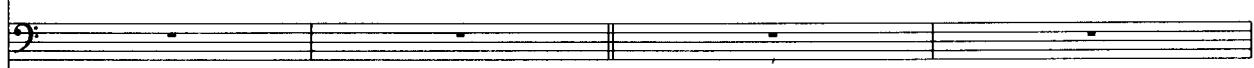
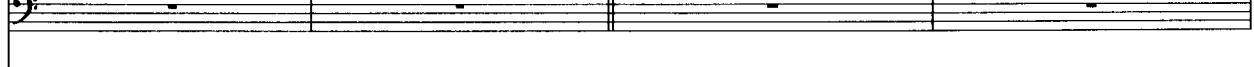
Scrat.

Bass.

Drums. *(Noise)*

Rhythm.

Kbd. 
  
 Guit. 
  
 Scrat. 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Rhythm. 

Kbd. 
  
 (Vocoder) 
  
 Guit. 
  
 Scrat. 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Rhythm. 

*(Strings)*  
*pp*

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

Kbd. 
  
 Guit. 
  
 Scrat. 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Rhythm.

Kbd. 
  
 Guit. 
  
 Scrat. 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Rhythm.

Kbd.      Guit.      Scrat.      Bass.      Drums.      Rhythm.

This section contains six staves. The Kbd. staff shows eighth-note patterns with grace notes. The Guit. staff has a single note. The Scrat. staff features a continuous pattern of eighth-note pairs. The Bass. staff has a sustained note. The Drums. staff shows quarter-note patterns. The Rhythm. staff shows sixteenth-note patterns.

Kbd.      Scrat.      Bass.      Drums.      Rhythm.

(4 times repeat)

(Kbd. from 2nd time)

This section starts with a repeat sign and '(4 times repeat)' above the Kbd. staff. It includes the Kbd., Scrat., Bass., Drums., and Rhythm. parts. The Kbd. part continues from the second ending. The Drums. part has a prominent sixteenth-note pattern.

Port.

This musical score consists of five staves. The first staff (Kbd.) has two measures of rests followed by a measure of eighth-note chords. The second staff (Scrat.) has a measure of eighth-note chords followed by four measures of sixteenth-note patterns. The third staff (Bass.) has a measure of rests followed by four measures of rests. The fourth staff (Drums.) has a measure of eighth-note chords followed by four measures of rests. The fifth staff (Rhythm.) has a measure of eighth-note chords followed by four measures of sixteenth-note patterns.

II

This musical score consists of six staves. The first staff (Kbd.) has a measure of eighth-note chords followed by four measures of rests. The second staff (Guit.) has a measure of rests followed by four measures of rests. The third staff (Scrat.) has a measure of sixteenth-note patterns followed by four measures of sixteenth-note patterns. The fourth staff (Bass.) has a measure of eighth-note chords followed by four measures of rests. The fifth staff (Drums.) has a measure of eighth-note chords followed by four measures of rests. The sixth staff (Rhythm.) has a measure of sixteenth-note patterns followed by four measures of rests.

Kbd.

Guit.

Scrat.

Bass.

Drums.

Rhythm.

# Autodrive

---

Herbie Hancock: Piano  
Rhodes Chroma  
Mini-Moog and Yamaha GS-1

Bill Laswell: Steinberger Bass (L-2)

Michael Beinhorn: DMX  
Synare  
Shortwave  
Mini-Moog Programming

この曲は“Rockit”とほとんど同じ様にして作られて  
いったと思われる。パーカッションのパートに書かれ  
ているシモンズのような音は、**Synare**だろう。他にも  
パーカッション的な音はシンセサイザーで演奏されて  
いる。パートⅠでの高い打撃音は同期信号によって起  
こされたりトリッガーでミニ・ムーブを鳴らせたもの。

全体的には以外と古い手法を用いている。例えば人  
間の声、ベースのチョッパー、あるいはパートⅠ、M  
のパーカッシヴな音などは単にデジタル・ディレイで  
リピートさせている。ベース・パターンを見てみよう。  
昔なつかしいパターンだ。次にアコースティック・ピ  
アノのリズムは全部第1拍目から鳴っている。これは  
明らかにジョークとも考えられる。ところがシンセサ  
イザーのメロディーはこの間をぬうようになっている。  
実をいうとどちらもメロディーではないような気もす  
る。

曲の構成はいつ終るともないピアノとシンセサイザ  
ーのかけあいであるテーマ部分がほとんどだ。ときた  
ま出てくるピアノ・ソロが特徴となっている。これが  
ハービー独自のアドリブ奏法で面白い。普通だとピア  
ノ・ソロはもっと盛り上がっても良いはずだが、すぐ  
に幕切れとなってしまうところが実にトリッキーであ  
る。

(大徳)

# AUTODRIVE

H. Hancock/B. Laswell/M. Beinhorn

© 1983 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music  
 The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS  
 Sale of this edition is authorized within Japan only.

Herbie Hancock:  
 Polyphonic Synthesizer

**A**

Acoustic Piano

Bill Laswell:  
 Steinberger Bass

Michael Beinhorn:  
 DMX, Synare

Herbie Hancock:  
 Mini-Moog

**B**

Synth.

D7

A.Pf.

D7

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

C (Human Voice)

L with Digital Delay

D7

D7

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

D

Synth.

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score page contains five staves. The top staff is for the Synth, showing a treble clef and quarter notes with grace notes. The second staff is for the A.Pf (Acoustic Piano), with a bass clef and a D7 chord indicated above it. The third staff is for the Bass, the fourth for Drums, and the fifth for Percussion. All staves are in common time and feature four measures separated by vertical bar lines.

D7

Synth.

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score page contains five staves. The top staff is for the Synth, showing a treble clef and quarter notes with grace notes. The second staff is for the A.Pf (Acoustic Piano). The third staff is for the Bass, the fourth for Drums, and the fifth for Percussion. All staves are in common time and feature four measures separated by vertical bar lines. The D7 chord from the previous page is repeated here.

**E**

Synth.

(D7)

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

**F** (Human Voice)  
 Synth.   
 Bass.   
 Drums.   
 Perc.   
 (Wood Block)

Synth.   
 Bass.   
 Drums.   
 Perc.

**G**  
 Synth.   
 Bass.   
 Drums.   
 Perc.

H

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score consists of five staves. The top staff is for the Synth, featuring sixteenth-note patterns with grace notes. The second staff is for the A.Pf (Acoustic Piano), showing a continuous eighth-note bass line. The third staff is for the Bass, with eighth-note patterns. The fourth staff is for the Drums, with a pattern of eighth-note pairs followed by rests. The bottom staff is for the Perc, with eighth-note patterns and rests.

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score consists of five staves. The top staff is for the Synth, featuring sixteenth-note patterns with grace notes. The second staff is for the A.Pf (Acoustic Piano), showing a continuous eighth-note bass line. The third staff is for the Bass, with eighth-note patterns. The fourth staff is for the Drums, with a pattern of eighth-note pairs followed by rests. The bottom staff is for the Perc, with eighth-note patterns and rests.

Synth.

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

D7

This section of the score consists of five staves. The first staff is for the Synth, showing eighth-note patterns. The second staff is for the A. Pf (Acoustic Piano), with a dynamic marking of D7 above it, showing eighth-note chords. The third staff is for the Bass, featuring eighth-note patterns. The fourth staff is for the Drums, showing sixteenth-note patterns. The fifth staff is for the Perc., showing eighth-note patterns.

I

Synth.

free tempo

Drums.

Perc.

S.H.  
pp

sempre p

simile

(Wood Block)

This section is labeled I. It includes three staves. The first staff is for the Synth, with a dynamic marking of free tempo. The second staff is for the Drums. The third staff is for the Perc., with dynamic markings S.H. (soft hammer) and pp (pianissimo). The Perc. staff also includes a dynamic marking sempre p (always piano) and a performance instruction simile (imitate) followed by a wavy line. A note in parentheses indicates (Wood Block) for the Percussion part.

Synth.

Drums.

Perc.

This section continues the musical score from the previous page. It includes three staves: Synth, Drums, and Perc. The Synth staff shows sustained eighth-note patterns. The Drums staff shows eighth-note patterns. The Perc. staff shows eighth-note patterns with a dynamic marking of p (piano).

**I'**

Synth. (Treble clef) has a continuous wavy line pattern across all four measures.

Drums. (Bass clef) has a steady eighth-note pattern in measures 1-3, followed by a sixteenth-note pattern in measure 4.

Perc. (Treble clef) has a eighth-note pattern in measure 1, followed by a sixteenth-note pattern in measure 4.

Synth. (Treble clef) has a continuous wavy line pattern across all four measures.

Drums. (Bass clef) has a steady eighth-note pattern in measures 1-3, followed by a sixteenth-note pattern in measure 4.

Perc. (Treble clef) has a eighth-note pattern in measure 1, followed by a sixteenth-note pattern in measure 4.

**I''**

Synth. (Treble clef) has a continuous wavy line pattern. Measure 1 is in common time (indicated by a 'C'). Measures 2 and 3 are in 2/4 time (indicated by a '2'). Measure 4 is in 4/4 time (indicated by a '4'). A bracket labeled '(Human Voice)' with a small box above it spans measures 2-4. Below this bracket, another bracket labeled 'with Digital Delay' spans measures 2-4.

Drums. (Bass clef) has a steady eighth-note pattern in measures 1-3, followed by a sixteenth-note pattern in measure 4.

Perc. (Treble clef) has a eighth-note pattern in measure 1, followed by a sixteenth-note pattern in measure 4.

K

Synth.

E7 (Marimba)

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

E7

Bass.

Drums.

Perc.

□

Synth.

D7

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

*r8va*

*l8va bassa*

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums

Perc.

M

Synth.

*Ca = 15", free tempo*

E7

A.Pf

(Marimba)

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

E7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth. N

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

to ♩

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

1

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score consists of five staves. The top staff is for the Synth, showing eighth-note patterns. The second staff is for the A.Pf (Acoustic Piano), with a dynamic marking 'D7' above it, showing eighth-note chords. The third staff is for the Bass, featuring eighth-note patterns. The fourth staff is for the Drums, with a dynamic marking 'P' above it, showing eighth-note patterns. The bottom staff is for the Percussion, with a dynamic marking 'P' above it, showing eighth-note patterns.

P

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score consists of five staves. The top staff is for the Synth, with a dynamic marking 'P' above it. The second staff is for the A.Pf (Acoustic Piano), with a dynamic marking 'D7' above it, showing eighth-note chords. The third staff is for the Bass, featuring eighth-note patterns. The fourth staff is for the Drums, with a dynamic marking 'P' above it, showing eighth-note patterns. The bottom staff is for the Percussion, with a dynamic marking 'P' above it, showing eighth-note patterns.

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains five staves. The first staff (Synth.) is empty. The second staff (A.Pf.) shows a melodic line with a D7 chord marking above it. The third staff (Bass.) has a continuous eighth-note pattern. The fourth staff (Drums.) shows a steady pattern of eighth notes. The fifth staff (Perc.) shows a pattern of quarter notes and eighth notes.

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains five staves. The first staff (Synth.) is empty. The second staff (A.Pf.) shows a rhythmic pattern with a D7 chord marking above it. The third staff (Bass.) has a continuous eighth-note pattern. The fourth staff (Drums.) shows a steady pattern of eighth notes. The fifth staff (Perc.) shows a pattern of quarter notes and eighth notes.

D.S. to N

**Coda**

**Q**

Synth.

**R**

D7

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

(W. Block)

Synth.

A. Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

S

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains five staves. The first staff (Synth.) is silent. The second staff (A.Pf.) shows a D7 chord progression. The third staff (Bass.) has eighth-note patterns. The fourth staff (Drums.) shows a steady pattern of eighth notes. The fifth staff (Perc.) shows two eighth-note patterns.

Synth.

D7

A.Pf.

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains five staves. The first staff (Synth.) has sixteenth-note patterns. The second staff (A.Pf.) shows a D7 chord progression. The third staff (Bass.) has eighth-note patterns. The fourth staff (Drums.) has eighth-note patterns. The fifth staff (Perc.) has eighth-note patterns.

Synth.

D7

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

Synth.

D7

D7

A.Pf

Bass.

Drums.

Perc.

V

Synth.

D7

A. Pf

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains five staves. The first staff (Synth.) shows eighth-note patterns with grace notes. The second staff (A. Pf.) shows a D7 chord followed by eighth-note patterns. The third staff (Bass.) shows eighth-note patterns. The fourth staff (Drums.) shows sixteenth-note patterns. The fifth staff (Perc.) shows eighth-note patterns.

Synth.

D7

A. Pf.

Synth.

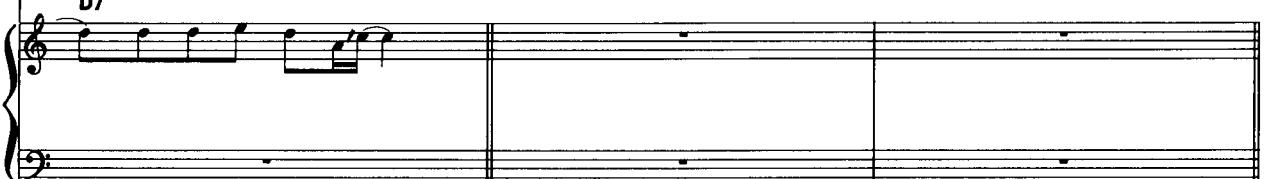
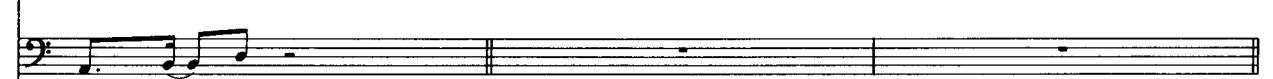
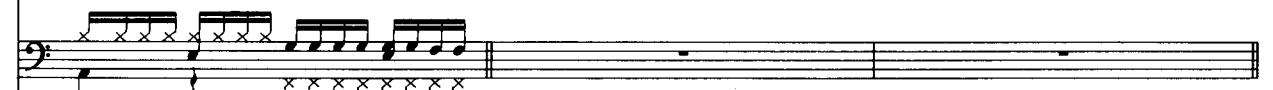
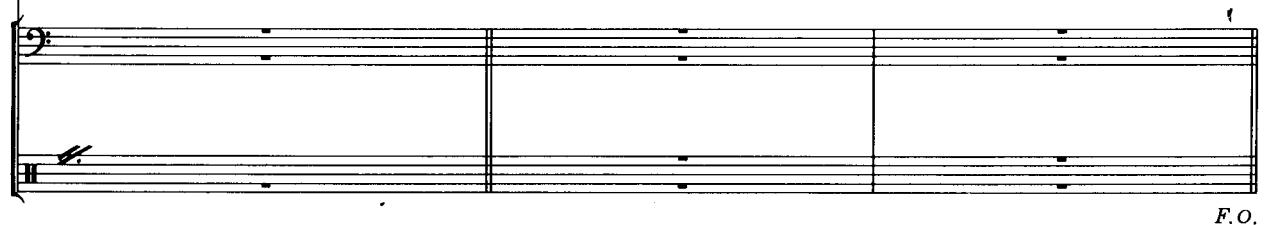
Bass.

Drums.

Perc.

This section contains five staves. The first staff (Synth.) shows eighth-note patterns with grace notes. The second staff (A. Pf.) shows eighth-note patterns. The third staff (Bass.) shows eighth-note patterns. The fourth staff (Drums.) shows sixteenth-note patterns. The fifth staff (Perc.) shows eighth-note patterns. There are two entries for the Synth. part in the A. Pf. staff, indicated by parentheses.

Synth. 
  
 A. Pf. 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Perc. 

Synth. 
  
 A. Pf. 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Perc. 

F.O.

# Karabali

---

Herbie Hancock: Piano

Fairlight CMI

Wayne Shorter: Soprano saxophone

Bernard Fowler: Vocals

Vocal arrangement

Daniel Ponce: Bata

bells

shekere

Hamid Drake: Cymbals

Will Alexander: Fairlight CMI programming

2枚のアルバム唯一の、アコースティック・ヴァージョンであるが、基本的なコンセプトは変わっていない。リズム隊は全て、人間によるアナログ・リズムであるが16ビートのアフリカン・リズムを基本に非常に複雑なうねりをあらわしている。また構成も必ずしも8小節単位でなく、7小節、9小節と一見不自然な単位が見事にリズムにとけこんでいる。

ソプラノ・サックスのウェイン・ショーターとハービーは、お互いにソロとバックの関係ではなく、この大きなうねりの中で対等に、そしてのびのびとプレイしているのが聞いてて気持ちいい。かすかに聞こえるソプラノ・サックスの音は多分フェアライトのサンプリングによるもので、ハービーの遊び心がキラリと光っている。

# KARABALI

H. Hancock/D. Ponce

© 1984 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music  
 The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS  
 Sale of this edition is authorized within Japan only.

Bernard Fowler:  
 Vocals

Wayne Shorter:  
 Soprano saxophone

Herbie Hancock:  
 Fairlight CMI

Acoustic Piano

Daniel Ponce  
 Bata  
 bells  
 shekere  
 Hamid Drake:  
 Cymbals

$\text{♩} = 120$

A

The musical score consists of five staves. The top staff is for 'Vocal' (soprano), featuring lyrics: 'Ka-ra - ba - ri'. The second staff is for 'Sax.' (soprano saxophone). The third staff is for 'Synth.' (Fairlight CMI). The fourth staff is for 'A. Pf' (Acoustic Piano). The bottom staff is for 'Perc.' (percussion). The score includes dynamic markings like 'ff' (fortissimo) and 'p' (pianissimo). Measures are separated by vertical bar lines, and the tempo is indicated as  $\text{♩} = 120$ .

**B**

Vocal. (Treble clef) *Ka - ra - ba - ri* *Ka - ra - ba - ri*

Sax. (Treble clef)

Synth. (Treble clef) (Sum Piano) *Fmaj7/G* (Synth) *p*

A.Pf (Treble clef) (Bass clef) *mp*

Perc. (Drums) *simile* (Mute)

Vocal. (Treble clef) *Ka - ra - ba - ri* 1. *Ka - ra - ba - ri* 2.

Sax. (Treble clef)

Synth. (Treble clef)

A.Pf (Treble clef) (Bass clef) *(Fm69/G)* *Fmaj7/G* *B♭/C C/D* *mf*

Perc. (Drums)

C

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf

Fmaj7/G      Fm69/G

Perc.

*simile*

Vocal.

Sax.

(Soprano Sax)

p

Synth.

A.Pf

E<sup>b</sup>maj9      B<sup>b</sup>/C      C/D      Fmaj7/G      B<sup>b</sup>/C C/D

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

**Fmaj7/G**

A.Pf

Perc.

Vocal.

Ka - ra - ba - ri

**D**

Sax.

S.Sax.

Synth.

**Fmaj7/G**

**Em9**

A.Pf

(Bell)

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

Perc.

F#m7(11)/E      Em9      A♭maj7/B♭

*pp*      *motto*

Detailed description: This musical score page contains five staves. The vocal part is silent. The saxophone part has a single note at the end of measure 4. The synth part starts in measure 1 with a eighth-note pattern. The piano part starts in measure 1 with a sixteenth-note pattern. The piano part includes harmonic markings F#m7(11)/E, Em9, and A♭maj7/B♭. The percussion part consists of a continuous eighth-note pattern throughout the measures.

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

Perc.

Ka ra ba ri —

pp      p

B♭maj7/C      B♭/C C/D

(Congas)

Detailed description: This musical score page contains five staves. The vocal part starts singing in measure 5 with the lyrics "Ka ra ba ri —". The saxophone part starts in measure 5 with a eighth-note pattern. The piano part starts in measure 5 with a sixteenth-note pattern. The piano part includes harmonic markings B♭maj7/C and B♭/C C/D. The percussion part includes a dynamic marking *pp* and a dynamic marking *p*. The percussion part also includes a note labeled "(Congas)".

**E**

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**Fmaj7/G**

*mp*

*simile*

*simile*

*simile*

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**Fmaj7/G**

*p*

*pp*

**F**

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**Fmaj7/G**

**Fm69/G**

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**B♭/C**

**C/D**

**Fmaj7/G**

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Fmaj7/G

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

B♭/C

C/D

G9

Perc.

(Bell)

**G**

Vocal.

Sax.

Synth.

(S.Sax.) (pp)

**Em9**      **F#7(11)/B**      **Em9**

A.Pf

Perc.

Vocal.

Ka ra ba ri

Sax.

Synth.

**A♭maj7/B♭**

**B♭7/C**

**B♭/C C/D**

A.Pf

(Congas)

Perc.

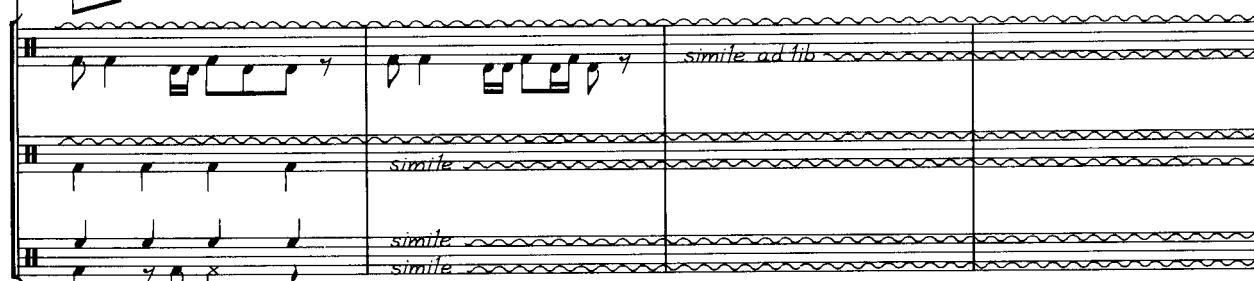
H

Vocal. 

Sax. 

Synth. 

A. Pf. 

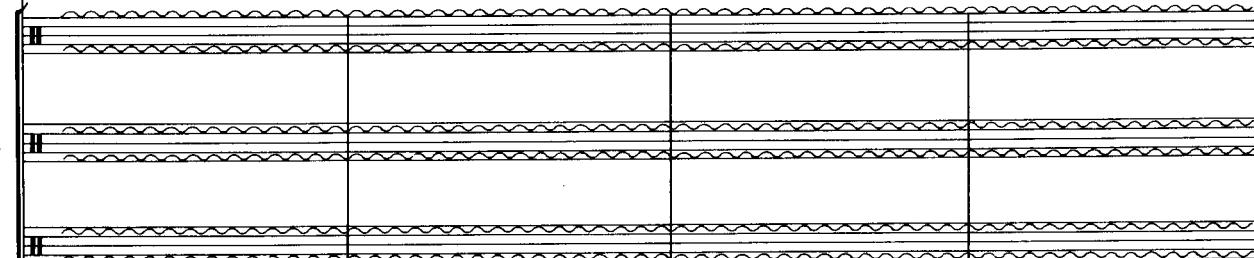
Perc. 

Vocal. 

Sax. 

Synth. 

A. Pf. 

Perc. 

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**B♭/C**

**C/D**

Vocal.

Sax.

Synth.

**Fmaj7/G**

A. Pf

Perc.

This page contains five staves. The first staff (Vocal) is mostly blank. The second staff (Sax) shows a melodic line with sixteenth-note patterns. The third staff (Synth) shows a steady eighth-note pattern. The fourth staff (A. Pf) shows a bass line with eighth notes and some sixteenth-note figures. The fifth staff (Perc) shows three horizontal lines with wavy patterns, indicating sustained sounds or rhythmic patterns.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

This page contains five staves. The first staff (Vocal) has a single note followed by a fermata. The second staff (Sax) shows a melodic line with sixteenth-note patterns, ending with the lyrics "Ka - ra - ba - ri". The third staff (Synth) is mostly blank. The fourth staff (A. Pf) shows a bass line with eighth notes and some sixteenth-note figures. The fifth staff (Perc) shows three horizontal lines with wavy patterns.

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

Perc.

**B/C**

**C/D**

**Fmaj7/G**

I

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

Perc.

**Em9**

**F#m7/B**

**Fm9**

(Bell)

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**A♭maj7/B♭**

**B♭/C**

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Perc.

**J**

**C**

**Fmaj7/G**

(Congas)

simile

simile

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

B♭/C

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

C/D

Fmaj7/G

E♭maj7

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth

Fmaj7/G

A. Pf

Perc.

This musical score page contains five staves. The first staff is for 'Vocal' and is mostly blank. The second staff is for 'Sax' and features a dynamic marking 'p'. The third staff is for 'Synth' and includes a key signature change to Fmaj7/G. The fourth staff is for 'A. Pf' (Acoustic Piano) and includes a dynamic marking 'f'. The fifth staff is for 'Perc.' (Percussion) and consists of three horizontal lines with wavy patterns indicating rhythmic patterns.

Vocal.

Sax.

Synth.

B♭/C      C/D      Fmaj7/G

A. Pf

Perc.

This musical score page contains five staves. The first staff is for 'Vocal' and is mostly blank. The second staff is for 'Sax' and shows a melodic line with a dynamic marking 'f' and a measure number '3'. The third staff is for 'Synth' and includes a dynamic marking 'pp' and a performance instruction 'S. Sax.'. The fourth staff is for 'A. Pf' and includes dynamic markings 'f' and 'p' and key signature changes between B♭/C, C/D, and Fmaj7/G. The fifth staff is for 'Perc.' and consists of three horizontal lines with wavy patterns.

K

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

Fm69/G

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

E♭maj9

E♭maj7/C

Fmaj7/G

Perc.

L

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

(Vib.)

Perc.

(Bell)

Vocal.

Sax.

Synth.

A.Pf.

Perc.

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

(Congas)

Perc.

**B<sup>7</sup>(<sup>13</sup><sub>#11</sub>) A<sup>7</sup>(<sup>13</sup><sub>#11</sub>) Fmaj7/G**

Vocal.

Sax.

Synth.

A. Pf

**B<sup>7</sup>(<sup>13</sup><sub>#11</sub>) A<sup>7</sup>(<sup>13</sup><sub>#11</sub>) Fmaj7/G**

**B<sup>7</sup>(<sup>13</sup><sub>#11</sub>) A<sup>7</sup>(<sup>13</sup><sub>#11</sub>)**

Perc.

F.O.

# Junku

Herbie Hancock: Piano

Fairlight CMI

Yamaha DX7

Rhodes Chroma

Memorymoog

Foday Musa Suso: Kora

kalimba

dusunguni

Bill Laswell: Steinberger Bass (L-2)

DMX

tapes

Aiyb Dieng: Talking drum

chantan

don don

cowbell

Rob Stevens: Praxis processing

XMD

ロスアンゼルス・オリンピックのテーマ曲。冒頭でタムのフィル・インのすぐ後に出てくるオーケストラの、ぶ厚いサウンドは明らかに Fairlight CMI のサンプリング音である。この曲では、DMX によって作られたベーシックなドラム・パターンに様々の音を重複させることによって少し違う味を出している。たとえばパート F ではボコーダーでリズムをきざんでいる。ベースラインにおいてはシンセサイザーが同じ音で鳴っている。

パート B からのテーマ、メロディーはトランペット用のサウンドであるが、いくつかの音源が同時に鳴っているようだ。中南米国のエキゾチックなメロディーが印象的である。そしてハープのような音色の Kara がとても民族音楽的な色を出している。

途中のリズム・ヴァンプでスクラッチのように聞こえる音があるが、クレジットによるとどうもテープ・レコーダーを使っているようだ。

この曲ではもちろんビル・ラズウェルが参加しているが、曲の展開の仕方が割と単純になされている。イントロ部分でドラムのタムが連打したり、あるいはオーケストラ・サウンドがフォルテシモで鳴ったりするという動機部分を大事にしていることだ。主旋律が一応終る体勢にはいると、そくざにこの動機がもち上がりてくるというパターンだ。いわゆる変奏曲の形式を絶対にとらないというところが面白い。

(大徳)

# JUNKU

H. Hancock/F. Suso/B. Laswell/A. Dieng

© 1984 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music  
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS  
Sale of this edition is authorized within Japan only.

$\text{♩} = 112$

Foday Musa Suso:Kara

Herbie Hancock:  
 Piano  
 Fairlight CMI  
 Yamaha DX7  
 Rhodes Chroma  
 Memorymoog  
 Tape

A

Bill Laswell:  
 Steinberger Bass

DMX

Channel 1: L ————— R

Aiyb Dieng: cowbell  
 chantan

Kara. A

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

The score consists of six staves. Kara, Syn.1, and Syn.2 have no notes. Syn.3 has a single note at the beginning of measure 1. Bass and Drums play eighth-note patterns. Percussion consists of vertical wavy lines. In measure 4, Syn.3 has a melodic line with eighth and sixteenth notes, ending with a dynamic marking 'molto' above a fermata. Bass and Drums continue their patterns. Percussion changes to horizontal wavy lines.

Kara. B

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

The score continues with six staves. Kara, Syn.1, and Syn.2 remain silent. Syn.3 begins a melodic line with eighth and sixteenth notes. Bass and Drums play eighth-note patterns. Drums play a sustained note in measure 8. Percussion consists of vertical wavy lines.

Kara.

Syn.1

A

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains six staves. Kara has a single note. Syn.1 has eighth-note pairs. Syn.2 has eighth-note pairs with a fermata over the first note. Syn.3 has a single note. Bass has eighth-note pairs. Drums have a steady pattern of 'x' and 'v'. Perc has a continuous wavy line.

Kara.

C

Syn.1

A

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

This section contains six staves. Kara has a single note. Syn.1 has eighth-note pairs with a fermata over the first note. Syn.2 has eighth-note pairs with a fermata over the first note. Syn.3 has a sustained note with dynamic pp. Bass has eighth-note pairs with dynamics > and >. Drums have a pattern with L and R indicated. Perc has eighth-note pairs.

Kara.

Syn.1 A

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

This section of the score spans four measures. Kara is silent. Syn.1 has a single eighth note at the start of measure 1, followed by a fermata and a sixteenth-note cluster in measure 2. Syn.2 has a single eighth note in measure 1, followed by a fermata and a sixteenth-note cluster in measure 2. Syn.3 has a single eighth note in measure 1, followed by a fermata and a sixteenth-note cluster in measure 2. Bass provides harmonic support with eighth-note patterns. Drums play eighth-note patterns throughout. Percussion consists of eighth-note clusters.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

This section of the score spans four measures. Kara is silent. Syn.1 has a single eighth note in measure 5, followed by a fermata and a sixteenth-note cluster in measure 6. Syn.2 has a single eighth note in measure 5, followed by a fermata and a sixteenth-note cluster in measure 6. Syn.3 begins with a sixteenth-note cluster in measure 5, followed by eighth-note pairs in measures 6 and 7, and a single eighth note in measure 8. Bass and Drums provide harmonic support with eighth-note patterns. Drums play eighth-note patterns throughout. Percussion consists of eighth-note clusters.

Kara. **D**

Syn.1

Syn.2 **A**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 **A**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score page contains six staves. Kara has a melodic line with grace notes and slurs. Syn.1, Syn.2, and Syn.3 are held notes. Bass provides harmonic support with sustained notes. Drums play a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes. Percussion consists of continuous eighth-note patterns.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

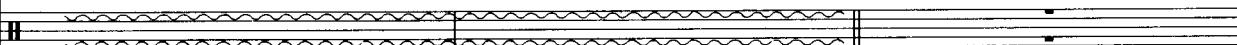
Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

This musical score page continues the six-staff arrangement. Kara's line includes a dynamic marking *p*. Syn.2 begins with a dynamic *p* and plays eighth-note patterns. Bass and Drums provide harmonic and rhythmic support. Percussion maintains its eighth-note pattern.

Kara. 
  
 Syn.1 
  
 Syn.2 
  
 Syn.3 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Perc. 

Kara. 
  
 Syn.1 
  
 Syn.2 
  
 Syn.3 
  
 Bass. 
  
 Drums. 
  
 Perc. 

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

**F**

Kara.

Syn.1

Syn.2 Dm

Syn.3

Bass. Vocoder

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 Dm

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Dm

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara. **G**

Syn.1

Syn.2 **A**

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc. *simile ad lib.*

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A D/A A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 D/A E/A A D/A E/A A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A D/A E/A A D/A E/A A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

H

Kara.

Syn.1

*p*

E/F# F#m7 E/F# F#m7

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

F#m7 E/F# F#m7

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

E F# F#m7

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

*repeat time only*

**Dm**

*repeat time only*

*f*

*f*

*repeat time only*

*Voice*

Kara.

Syn.1

**Dm**

Syn.2

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

**Dm**

*p*

L — R — L — R — L

*D.S.*

**Coda J**

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

K

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3 *PP*

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3 *poco a poco* *cresc.* *f*

Bass.

Drums.

Perc. *simile*

Kara.

Syn.1

Syn.2 E/A D/A E/A A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums.

Perc.

Kara.

Syn.1

Syn.2 A

Syn.3

Bass.

Drums. L R

Perc.

Kara.

Syn.1 ff

Syn.2 A

Syn.3 pp

Bass.

Drums. L R L R L R

Perc.

# EARTH BEAT

H.Hancock/B. Laswell/M.Beinhorn

© 1983 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music  
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS  
Sale of this edition is authorized within Japan only.

*J = 92 Rhythm*

*B* Synth.

*1. Scratch & Snare*

*C Clav. (DX7)*

Sheet music for a multi-instrument composition, likely for a synthesizer or electronic music piece. The score includes parts for Bass, Drums, Synth (Voice), Synth (DX7 ad.lib.), Clav. (DX7 ad.lib.), Snare, Guit. (delay), and Bass. The music features various rhythmic patterns, including sixteenth-note figures and eighth-note chords. Performance instructions like '(3 times)', '(Rhythm continues)', '(continues simile)', '(Rhythm stop)', and '(ad lib continues)' are included. The score is divided into sections labeled A through F.

# HARDROCK

H. Hancock/B. Laswell/D. Showard

© 1984 by Chu-Teh Music Inc./Hancock Music  
The rights for Japan assigned to CBS/SONY SONGS  
Sale of this edition is authorized within Japan only.

*J = 108*

Dr. Hi-Hat (Synth. noise) Scratch

Repeat 4 times

Scratch

Conga Repeat 4 times

Repeat 4 times

A Synth.

Bass (Rhythm)

Repeat 3 times

Scratch

Guit. & Bass

Repeat 3 times

C

(Guitar continues same pattern)

to  $\Phi$

2x.

Repeat 3 times

D Scratch Snare

(add Synth. 2nd & 3rd times)

Repeat 3 times

(Hi-Hat)

(Voice)

E Clav. (DX7)

Guit.

Bass

Repeat 4 times

F Scratch

G Scratch

Repeat 4 times

(add Bass Dr.) Scratch

Rhythm continues same pattern)

(add Snare)

Repeat twice

Repeat 4 times

Synth.

Scratch

(Hi-Hat)

(add Synth.)

D.S. to [C]

**Coda**

C1av. (DX7) ad lib.

(Rhythm)

Repeat 8 times

Scratch

Voice

Synth.

(Hi-Hat)

Guit. Solo ad lib.

(Guit.)

Bass

Repeat 6 times

C1av. (DX7) ad lib.

Repeat 3 times

Synth.

Scratch

(Hi-Hat)

Voice  
(2nd Time only)

(Hi-Hat)

Rockit  
Earth Beat  
Autodrive

HERBIE HANCOCK FUTURE SHOCK



Hardrock  
Karabali  
Junku

ISBN4-11-770861

C0073 ¥1800E ★